

ヤマハニュース

YAMAHA NEWS NO.134

8

1974
AUG.

天気の良い日は
バイクに乗ろう。





“青空シャツでゴー” 東京・足立区のも田輪店(多田芳明社長)さんと。

●ヤマハ発動機株式会社

〒438 静岡県磐田市新貝2500番地 (05383)(2)1111(大代)

●仙台支部

〒983 仙台市日の出町3丁目8-36 (0222)(94)6121-6

●名古屋支店

〒462 名古屋市北区辻本通2丁目34 (052)(913)2121

●四国支店

〒760 高松市松島町3丁目22の9 (0878)(31)1661

●北海道ヤマハ

〒063 札幌市西区24軒1条7丁目35 (011)(641)2211

●東京支店

〒104 東京都中央区銀座8丁目9-13 (03)(572)2021
(銀座オリエントビル)

●大阪支店

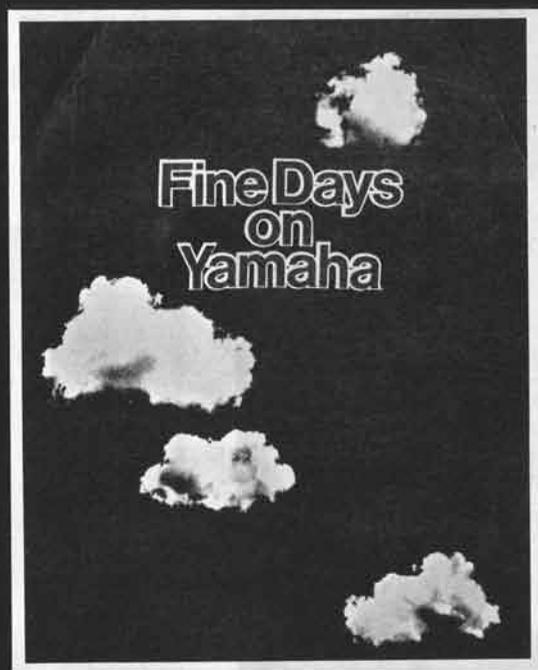
〒550 大阪市西区北堀江通4の27 (06)(538)7331

●九州支店

〒812 福岡市博多区博多駅中央街8番36 (092)(41)3606
(博多ビル)

天気の良い日はバイクに乗ろう。

青空シャツでゴー



ヤマハの新たな提案〈天気の良い日はバイクに乗ろう〉のPRキャンペーンは、おかげさまで大きな成果をあげつつありますが、さらに7月1日からスタートした「青空シャツプレゼント」も、がぜん人気を呼んで、1日に2000通を越える応募をいただいています。

Fine Days on Yamaha——天気の良い日はヤマハに乗って——の青空シャツをお店のアイキャッチに、そしてPOPに、どうぞマイバイク時代へ強力なセールス作戦をご展開ください。折から夏まっさかり。みなさまのご健闘を心からお祈りいたします。

いま、世界の二輪車時代に即応する

ヤマハのニユースタッフ

ヤマハ発動機株式会社では、六月二十八日に開かれた定時株主総会ならびにその後の取締役会において、川上源一社長の取締役会長就任と、小池久雄専務の代表取締役社長就任を決めました。

いま、この新しいスタッフのもとにヤマハは、新商品の技術開発に、生産に、販売に。つねに高品質・高性能の価値ある商品づくりをもって、世界市場に、みなさまともどもさらに大きく発展する所存でございます。

ごあいさつ

ヤマハフレンド店のみなさまには、常々格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。さて、私どもはこのたび取締役会長、取締役社長にそれぞれ就任いたしました。

いまさら申し上げるまでもなく、昨今の情勢はまことにきびしいものがあり、われわれのおかれている市場環境もけつして順風満帆といった恵まれた状況にはありませんが、なお二輪車に寄せられる期待は大なるものがあります。二輪車が人々の生活に深く密着し、また省資源、省エネルギーの乗物として社会的にも高く評価されていることはその証左のひとつといえましょう。





7月9日、東京・品川のホテルバシフィックにおいて開かれたヤマハ発動機株式会社特約店懇親会の席上、小池久雄社長は「川上前社長の偉大な路線をもとに、確固たるヤマハの技術力を軸として、生産に、販売に、一貫した体制をきざぎ、新規需要を促進するオールヤマハの企業力を結集して、みなさまともども大きな発展をめざす」と、今後の抱負を述べ、特約店のみなさまの万雷の拍手を浴びた。



北は北海道、南は沖縄からのお客さまを代表して祝辞のあいさつに立たれた新潟・高橋商店、高橋源治社長は「ヤマハ発動機株式会社を創設した川上前社長のあとをついで、いま全幅的な信頼のもとに就任した小池新社長は、つねに企業の将来を創造する深い洞察力をもって知られ、その集中力、掌握力、決断力にはまことに敬服するものがあり、今後とも一致協力してともに大きな繁栄をきざそう」と、小池久雄社長と固い握手をかわされた。



「マイバイク時代」を世界の市場へ。小池社長を中に、左に根本常務、右に江口常務、長谷川常務のヤマハ首脳陣。



もとより微力ではありますが、ヤマハフレンド店のみなさまをはじめ、業界各位のお力添えをいただきまして、専心業務に努力いたし、積極的に市場を拡大していくことで、みなさまともども繁栄への道を力づよく歩みたいと存じます。

なにとぞ、今後ともよろしくご指導とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

まずは誌面をかりまして就任のごあいさつを申し上げます。

昭和四十九年七月

ヤマハ発動機株式会社

取締役会長

川上 源一

代表取締役社長

小池 久雄

● 朝から夕方まで使って 500円

ヤマハレンタルバイク



朝から夕方まで使って 500円 / RSY
レンタル料金

回数	時間	50cc	50cc
半日	12時間以内	500円	600円
1日	24時間	700円	800円
2日	48時間	1,300円	1,400円
3日	72時間	1,900円	2,000円
7日	168時間	3,000円	3,300円
15日	180-29時間	5,000円	5,500円
1ヶ月	上記以上	8,000円	9,000円

レンタル日数を超過した場合は
1日あたり800円を加算として頂きます



お店のイメージアップ、ホットPPの顕在化にも一役

あなたのお店でもやってみませんか!!

さあ、どうぞ。地域社会に密着した商法として新しいお客さまづくりに効果をあげているレンタルバイク

ヤマハからの新しい提案へ「天気の良い日はバイクに乗ろう」キャンペーンの一環として「青空レンタル」「青空リース」が町や村で人気を呼んでいます。

宮城県古川市の吉田仁寿社長の経営するレーシング・サービス・ヨシダさん（略称R、S、Y）では、四月のはじめから一足先に、バイクのレンタルを実施してきましたが、四月から六月の三カ月間に、延べ300名近くのお客さまがレンタルバイクを利用しており、夏の需要期をむかえて、レジャーにビジネスにと反響はますます大きく広まる気配です。

新しいお客さまが次々と

吉田さんは、自ら、モトクロスの選手として活躍した人。レーシング・サービス・ヨシダという店名からも察せられるように、お店に集まるお客さまはモトクロスを中心として



ショーウィンドウを借りてのPR。このほかに地元新聞にも広告をだしたりしてきめ細かにPRしている

遠くはなれたところからのレース仲間が多いといった傾向がありました。

専門店として、特定のお客さまをしつかりとらえるといったことは、もちろん必要ですが、市街地にあるといったお店の立地条件をフルに生かし、地元の人々にもっと密着した商売の必要性を感じた吉田さんは、その手はじめとして、レンタルバイクをはじめたのです。

フル稼働の

チャピイ/ジツピイ

レンタル車として用意されたのは、ヤマハチャピイLB50-II・A3台と、ヤマハジツピイLB80-I・H2台の計5台。もっかフル稼働の人気ぶりです。

「正直言って、レンタルバイクがこんなに人気があるとは思いませんでした。自分でもびっくりしています」という吉田仁寿社長は、「大崎タイムズ（地元の新聞、発行部数一万二千）に広告を出したり、店頭でポスターをかかげてPRしましたが、今までお店に来たことがない新しいお客さまが、次々と借りにきてくれます。一度利用してくれたお客さまのクチコミでその友達がまた来るといったこともよくあります。

いままでのところでは、学生さんが利用するケースが圧倒的ですが、最近では仙台方面からのセールスマンの方々が、お得意先まわり



若者向きのムードでいっぱいの店内。そして目につくところにレンタル料を明示

の足として、ビジネスに使用するというケースも目立ってきました。名前がうれば、このようなケースはさらに多くなるものと期待しています。

また、婦人層にも大いに売っていきたいと思いますので、女性専用新しいチャピイをおろそうと考えてもいるんです。

「朝から夕方まで使って500円」を、キヤッチフレーズにやっていますが、一日だけというお客さまより、二日、三日といったお客さまが意外に多いんです。

これからは夏休みもありますし、はやくも夏期休暇を見込して、一週間、十日、といった長期レンタルの予約が増えてきました」

安上がり、

そして次にはマイバイク

お客さまのひとり、高橋桂さん（17）は、「自動二輪の免許を去年一月にとって、この間まで、自分でオートバイをもっていました。が事情があつて手放してしまいました。古川工業高校の定時制に通い、昼は吉田さんのお店の近くの新聞屋さんでアルバイトしていますが、友達のとこに遊びに行ったり、休日

レンタルバイク申込書

50 80 KX CR

氏名 印 生年月日 年 月 日生
免許証番号

住所

貸出日 月 日 時 分より 月 日 時 分迄

誓約

盗難、及転倒損傷。故意に依る損傷を起こした場合は、修理実費を弁償することを約します。

年 月 日 氏名 印

(切取線)

レンタル料金表

◎朝から夕方まで使って500円

		50 cc 料金	80 cc 料金
半日	12時間以内	500,-	600,-
1日	24時間以内	700,-	800,-
2日	48時間以内	1,300,-	1,400,-
3日	1日とは24時間	1,900,-	2,000,-
7日		3,000,-	3,300,-
15日		5,000,-	5,500,-
1ヶ月		8,000,-	9,000,-

レンタル日数を超過した場合は別途1日当り800円を加算させていただきます。

燃料費(ガソリン代)はお客様のご負担になります。

盗難転倒及び故意による損傷の場合はお客様の実費負担になります。

電話一本で車のおとどけも致します。(5k以内に限りです)

おとどけ料金は3k以内200円 | k超す毎20円

営業時間 AM 8:00 ~ PM 6:00

モーターサイクル専門チューニングショップ
レーシングサービスヨシダ

古川市浦町 TEL (2)4527

レーシングサービスヨシダさんが使用しているレンタルバイクの申込書



もうモトクロスをやる年でもないんで、こんどはカートに……と、新しい構想を胸に秘めての吉田仁寿社長

「ジッパイをよく借ります。最近、バスやタクシーが値上げして、例えばバスで古川から仙台まで行くと片道500円もかかるんです。それなら、5000円でチャピイを借りて行った方が得ですもんね。バスだと自分の好きな時間に行ったり、帰ったりもできませんが、レンタルバイクなら、自分の都合でどうにでもなりますし。今までに5回ほど借りていますが、50ccがこんなに役立つとは知らなかった。こんどはマイバイクに50ccを考えたいですね」と感想を述べていました。

潜在需要の喚起に効果大

古川営業所の宇江喜所長は「レンタルバイクは、150回貸し出せば完全にペイしますよ。一年に土曜、日曜が104日もあります



宇江喜所長

から、一週間に2、3日の稼働で一年で償却できる勘定になります。レンタルとしてペイしなくても、潜在需要者の発見や、お店のイメージアップにとお店の売り上げ増に結びつくことは間違いありません。

とくに吉田さんのような市街地にあるお店では、レンタルバイクをすることによって、新規需要者の開拓がしやすくなると思います」とレンタル作戦を高く評価。

「いっぽう吉田仁寿社長も「利用者名簿の整理と、ホットPPに対する積極的なアプローチによりレンタルバイクが実販に結びつく可能性は大いにあります」と、ファミリーで大衆向けのトータルな店づくりを目指し、レンタルバイクに積極的に取り組んでいます。レーシングサービスヨシダさんのほか、

江刺市 八百久モーターズ

一の関市 千忠自転車店

登米郡米谷町 行場モーターズ

気仙沼市 エピナ輪業商会

北浦(小牛田町) 角輪商会——などのお店でもレンタルバイク制度をとり入れており、この

ほかにも準備中のお店が5店ほどあるということです。あなたのお店でもいかがでしょう。



きょうも若いお客さまが……。万全な整備で安全を保障、おなじみさんも増えています

免許教室がいちばん良かわいね

女性のお客さまがどんどん増えています

鹿児島市伊敷町梅ヶ淵 米倉モータース

☎0992(2)3061

「天気の良い日はバイクに乗ろう」を合言葉に、地域社会に密着したさまざまなセールスでマイバイク時代がつくられつつありますが、鹿児島市伊敷町の米倉モータースさんではヤマハ原付免許教室をお店の核に、積極的な訪問販売で着々と商圏を拡大しています。



6月16日、大迫町公民館で行われたヤマハ原付免許教室で講師をつとめる米倉憲雄社長

免許試験はおまかせ

夫婦両輪で訪問販売

鹿児島市の中心街から国道三号線を北に車で十分、左手にヤマハフレンド店の看板が目につきます。ここが米倉憲雄、睦子ご夫妻の米倉モータースさんです。

開業以来こととして六年、いまや近在での米倉モータースさんの名は不動です。というのも、ヤマハ原付免許教室を中心の柱に、外売りを主に店頭売りを従に、地域社会に密着した商法をすすめてきたからです。

「鹿児島市といっても、うちは市の外れです。最初はいかに市内に入るかに努力していましたが、ある行商の人から、市場として市をとりまく郊外がいかに重要であるか、その体験談をじっくり聞いたことがあるんです。

たんてきにいえば、外交販売です。柳井の周防フレンド店さんも同じようなこと述べていますが(四月号参照)、昼はフリーのお客さまにそなえての店頭サービス、夜が本来の営業と、毎日毎日、夕食は夜の十一時という生活をつづけました。

折りからヤマハ原付免許教室がスタート、これが当りました。バイクは欲しいが、免許がないという人が本場に多い。そして郊外の人ほど、バイクのある生活が必要なんです。島に、買物に、連絡に、バイクは生活の足として非常に重要な役割を果しているんです。

なるほどナ、と思いました。それから一日何軒と訪問先をきめては、せつせと歩きました。訪問先の門限を10時ときめて、予定した訪問先を終えても、10時までに時間がある場合はお客さまからお客さまを紹介してもらい、積極的に歩きました。それもワイフとふたりで歩いたんです」

天気の良い日は
バイクに乗ろう。



「どうですか、お店の青空キャンペーンは」「はい、好調にすす
んどります」担当の平山営業員との会話も明るい米倉社長



仲むつまじい米倉夫妻。訪問計画はもっぱら
奥さまの受持ちとか。



「納車も順調です……」



〈天気の良い日はバイクに乗ろう〉

奥さま、ハンドルをどうぞ！

米倉憲雄社長の話をついで奥さまも、「ええ、毎晩十一時というのは子供たちに本
当に可哀想なことでしたが、店の基盤をつく
るまではと頑張りました。おかげさまで、そ
の甲斐あって今では「小さな足で大きなおつ
きあい」をしていただいています。

やはり、ふだんの努力と地域社会に密着し
た商法というのが大切ですね。それと、催し
ものは単発ではよわいと思います。免許教室
なら米倉といわれるまでには、それなりに何
度もくりかえし行うことが大事なんです」

担当のヤマハ南九州の平山営業員も、
「公民館を借りたり、信用金庫の会議室を利用
したり、そのときどきで会場は変わるの
ですが、会場の設定、駐在所への連絡、インス
トラクターとしての講習指導、そして出張試
験と、米倉さんはお客さま本位に実に手まわ
しよく動いています」

活動の夏を迎えて、米倉憲雄社長は、
「天気の良い日はバイクに乗ろう」のシーズ
ンです。ヤマハ原付免許教室の一環として乗
り方教室を徹底していきます。

チャピイは身体の小さい人でもらくに足が
地につきまますし、ジッピイは高校生など若い
方に人気がありますね。バイクはまったく初
めてというお客さまにはオートマチックメイ
トが喜ばれています。

乗り方教室は、農業協同組合の協力を得て
「奥さまハンドルをどうぞ」と呼びかけ
ていますが、正しい乗り方は交通安全の基本
をなすものとして、「天気の良い日はバイク
に乗ろう」の第一歩となるもの。

ま、これからもヤマハ原付免許教室プラス
正しい乗り方講習会を店の核として、たくさ
んの方々にバイクのある生活を楽しんでい
ただこうと思っています」

50c.c.バイクはうちのおたから

Y **Z** **C** の伊藤輪業商会です

ヤマハ

ジッピー

クラブ



さんねん、きょうは雨。でも、伊藤さんのお店にいけばと、三々五々、クラブ員が集って楽しいYZCのよも山ばなし。ユニフォームをつくろう、ステッカーをつくろう……と。



仲間をさそってYZCのツーリング。シーズンには毎月1度は行きたい。そしてみんなをジッピーに乗せたい……と。



「今シーズンの私の第一の目標、それは50ccバイクの拡売。そして出来たら店をもう少し広げて若い人の集る場所をつくりたい」

50ccはマイバイクの筆頭商品さ

「おもしろいことがありますよ！ 若いお客さまがうちに大排気量車の整備に寄ったんです。それで代車としてジッピーを貸したんですが、約束の夕方になっても戻ってこない。自分の愛車をとりよきたのはなんと翌日の夕方。まる二日間ジッピーを「マイバイク」としていたんですね。」

そして数日、こんどはジッピーを買いにきたんです。それからはその人の友だちもきたりして、短い間に五、六台のジッピーが売れました。同好の士とはよくいったもので、その後はお互いジッピーを駆っては店にあつまるようになった。

オートバイクにかけてはこちらも本職。つい話の中に入りましてね、そんなとき、お客さ

まのほうから「ジッピークラブ」をつくらうという声が出て、今年の二月頃ですか、話はトントン拍子にすすんで、クラブ名もYZC II ヤマハジッピークラブとさまり、さっそく寒風について松島まで記念ツーリングに行ってきたました」

伊藤輪業商会伊藤久義社長の話です。十五才のときに自転車店に勤務したのがこの道のはじまりという伊藤久義社長は、自転車から取付エンジン、そしてオートバイクにと、すでに二十二年のキャリアをもつ大ベテラン。六年前に現在のお店を持った。

奥さまのムツ子さんによれば、オートバイクと結婚したのではないか、と思うほどオートバイク好きであるという。そういう奥さまもご主人のすすめで、ヤマハ原付免許教室で50cc免許をとり、ジッピーで、あるいはチャビイ

に乗って日常の用をたしている。

クラブづくりでギブ&テイク

「お客さまがきて、クラブをつくり、そしてPRもしてくれる。だから、もっともっとジッピー・ファンを増やしたい」と伊藤久義社長のユメは大きくふくらむ。

「町を走っていても、同クラスの車が目につくと、Uターンしてでもついていって、話のきっかけをつくり、店に遊びにくるように誘います。店にきていただければ、YZCの人とも顔なじみになりますし、ついにはジッピー党へ——、というわけです」

こうして仙台市内でもトップクラスのジッピー販売が達成されていますが、いつぼう伊藤久義社長は安全面にも細かな配慮をはらって、健全なクラブ育成を心がけている。

「オートバイクは正しく乗ってこそ人の目にスマートに見える、これが私の持論なんです。うちのYZCのメンバーはみんなよく守ってくれています。ですから、YZCは正統派の楽しいクラブです。今後さらに充実し、大きく発展させていくには、お客さまが自主的につくったものだけに、私も出来るかぎりの応援をしたいと考えているんです。」

具体的にどうしたらよいか、なかなかむずかしい問題もありますが、マイクロスバスのセコハンでも買って、クラブハウスにしたらなども考えているんです。

もっかYZCの正会員は十五名。へ天気の良い日はバイクに乗ろうと、クラブメンバーもたくさん仲間の参加を期待している。
(仙台市小松島1-4-15 ☎(33)7059)

天気の良い日は
バイクに乗ろう。

普通の人間ならもちろんだれでも静かで平和な生活を望んでいるが、時には平和ではあるがその単調な日常生活から抜け出してアドベンチャーを試みたくなる時が必ずあるはずである。

私と私の友人である「モト・ジャーナル」誌の編集長ビエール・バレットとが、キリマンジャロにオートバイで登ろうということ考えたのも、まさに今といったような理由からである。

またそのアドベンチャーの対象をキリマンジャロに選んだのは、神秘的でロマンティックな響きの名前を持つこの山が小説や映画の題材にもなるように大変美しいということと、その五八九五メートルという高度にしては、比較的アタックしやすい山であると判断したためである。

入念な予備踏査

我々はこの計画をせひとも成功させようと思っていたので、この計画を実行する前に十分な準備期間を設けた。つまり私とビエール

は実際にオートバイでアタックする前に、自分たちの足でキリマンジャロに登り、その地形がどんなものかを踏査し、オートバイで征服するためにはどのような装備が必要となるかを徹底的に研究したのだ。

この入念な予備踏査で初めて実際のキリマンジャロを目にし、その美しさにますます打たれた。そして一二〇キロメートルにおよぶ足による探険を通じて我々はオートバイでのアタックに一層のやる気を起こしたものだ。

マシンはヤマハに決める

予備踏査からバりに帰った我々がまず最初にしたことは、歩いて登ることさえ非常な体力と忍耐を必要とする六千メートルの高度に十分耐え得るマシンを選ぶことだった。

我々にとって実に幸運なことには、我々のこの計画を知ったパリにあるヤマハの代理店ソノート社の販売部長であるJ・C・オリバー氏がヤマハの市販トライアラー、TY250を二台我々に提供してくれることを心よく承知してくれたことであつた。この吉報を知

った我々はこの時すでに八〇%の成功を確信したのである。ヤマハの優秀な技術力とミック・アンドリュウスが太鼓判を押すTY250の高性能ぶりを知っていた私とビエールはかねてから秘かにこのマシンに目をつけていたのだ。

準備万端整えて

しかしながら問題がなかったわけではない。それは、五千メートル以上の高度における酸素不足が人間とマシンに及ぼす影響をいかに解決するかということだった。我々は今度はまだ歩いて登るだけではなく、それこそ道なき道を時には固いアイス・バーンの上をオートバイを運転しなくてはならないのだ。だがこの時も我々は幸運に恵まれた。A・M・Pというメーカーが我々に特殊酸素ポンペを提供してくれたのである。これによりキリマンジャロ山頂へのアタックの前に、高度五千メートルの空気の希薄な場所でもこのポンペにより一晩の十分な睡眠が約束されたのである。残された問題はオートバイが高所における



キリマンジャロへの入口にあたるマラング村に着いた2台のTY250

山があるからそこに登る——、とはある高名な登山家の言葉。本当に人間の心に訴えるものがあれば、人はそこに理由づけなんか求めない。これは、トライアラーとして世界第一級のマシン「ヤマハトライアルTY250」を足に、マン・マシーンが文字どおり一体となつてトライしたキリマンジャロへの冒険の道。周到な用意のもとに選ばれた二台のTY250とふたりのフランス人ジャーナリストの不撓な斗志とが、関係国の特別許可のもとに、あるゆる困難を克服して、標高五八九五メートル、赤道直下のアフリカ大陸にそびえる最高峰、キリマンジャロへの登頂を成功させたのである。

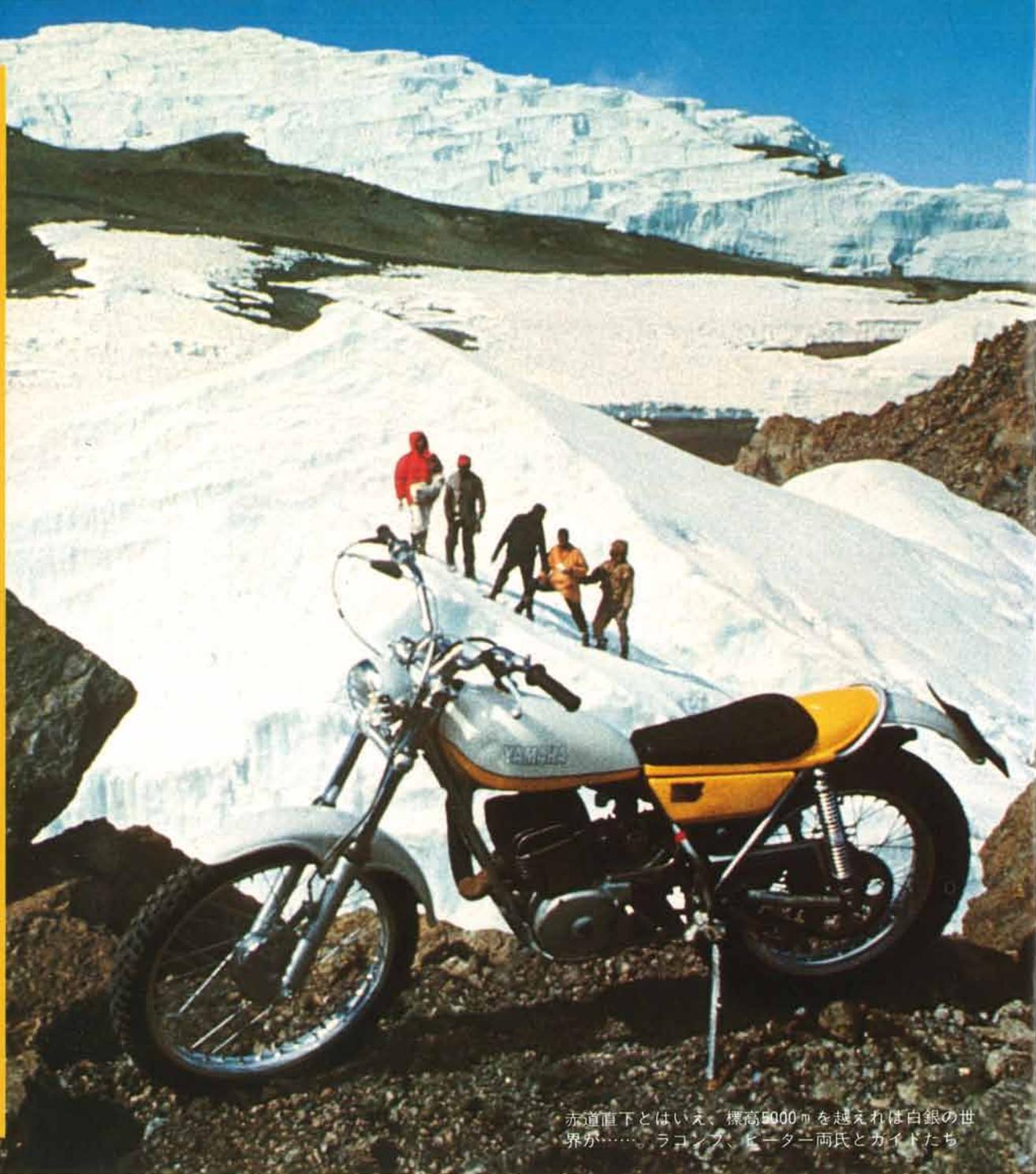
ふたりのフランス人ジャーナリストとは、フランスのスポーツ誌「チャンピオン」とオートバイ誌「モト・ジャーナル」の編集者クリスチャン・ラコンブ氏とビエール・バレット氏。以下はC・ラコンブ氏のペンによる得難いレポートのダイジェストである。

大いなる出発とトラブル

こうしている間にも我々は自分たちの個人的な必需品を前回の予備踏査に基づいて念入りに準備した。もちろん今回はオートバイに乗るのでブーツ、ヘルメット、手袋なども忘れなかった。準備万端整った。

我々の計画は飛行機でケニアのナイロビまで飛び、陸路でタンザニアに入ろうというものだった。そして12月3日にはナイロビを出発する予定だったが、悪天候のため飛行機の出発が2日も延びたので待ちに待ったアドベンチャーへのスタートは12月5日になった。

ヤマハ、キリマンジャロに乗り



赤道直下とはいえ、標高5000mを越えれば白銀の世界が……。ラコンズ、ピーター両氏とガイドたち

ナイロビ空港でランド・クルーザーに、TY250を始めとする全ての装備を積みこんだ私とピエールは、一路キリマンジャロのふもとにあるマラング村を目指した。アフリカ特有の雄大なサバンナを走りながら、遠くから次第に近づいて来る美しくも偉大なキリマンジャロの姿に我々の胸はおどった。

マラング村は海拔千六百メートルのタンザニア共和国にあり、キリマンジャロに登る人はみなここにある一つのホテルのどちらかに宿泊、ここでポーターやガイドを雇うのだ。

勇躍マラングに乗り込んだ我々ほとんど知らない知らせを受け取った。美しいキリマンジャロ一帯は国立公園になっているので、そこをオートバイで走るにはもちろん特別の許可が必要である。前回の予備踏査でそれを確かめた我々はバリエに帰っている間に既に必要な特別許可を得ていた。ところがここへ来てみるとその許可が取り消されていたのだ。

十二月七日から九日まで私とピエールは、取り消された許可を生き返らすためにあらゆる努力をした。国立公園の管理責任者やわが国フランスの駐タンザニア大使と折衝するたぬ六〇〇キロも離れた首都ダルエスサラームへ出かけた。結局九日の夕方になってようやく我々はオートバイによる登山のための特別許可を再度受けることができたのである。

ジャングルと 荒れ地と岩石と

我々がTY250に乗って実際にマラング村を出発できたのは結局十二日の朝になってしまった。我々に残された日数は四日しかなかった。普通なら二晩泊まりで頂上を目



映画に、小説の舞台に、神秘的な美しさで知られるキリマンジャロと2台のTY250



草原の中でひと休み。このあたりはまだ酸素も十分。汗ばんだ身体にそよ風が気持ちよい。



酸素ポンペを背に、TY250と共に最後のアタック。登山者泣かせのこの荒れ地はまさにTY250好みの地形ではあった。



「やった！」地元マラング村のポーターたちと喜びを分かちあう。

指すところを我々は一泊だけで頂上まで行きつかなければならなかった。

マラング村から海拔三〇〇〇メートルにあるマングラの山小屋までの十六キロは、まさに熱帯のジャングル地帯で、つる植物や巨木の根っ子が我々の行く手をさえぎった。しかもこの地方は雨が多いので地面はあらゆる所が水で滑りやすくなっており、オートバイ走行にとってはまさに難行苦行の連続であった。しかし我々のTY250は驚くべきタフネスぶりを発揮した。こういう所でマシンのトラブルがなかったのは非常にありがたかった。

マングラから次の山小屋のある、ハロンボ(海拔四〇〇〇メートル)までは更に十六キロあった。この間にうっそうとしたジャングルは背の低い荒れ果てた草原に、巨木の根っ子は大きな岩石にとって代っていた。これぞまさにトライアルである。しかしここまで来てもTY250には何の異常も見られずいたって元気であった。

霧、雨、そして雪

キリマンジャロはマウエンジ(五〇〇〇メートル)とキボ(五九〇〇メートル)の二つの頂を持ち、それらの間の高度五〇〇〇メートル付近は、もはや草木一本見られない。大きな岩石は姿を消し、小石だらけの地面は熊手で掃いたあの日本の禅寺の庭のような美しさであった。

ここまで来ると私とピエールとヤマハにとつての強敵は荒れ地よりもむしろ高度からくる酸素の欠乏と寒さであった。時間の経過とともに天候は次第に悪くなった。霧が出てそれが霧雨となり、ついには雪になった。

我々は五〇〇メートルの高度の所にあるキボ・ハットという名の三番目の山小屋に



た。酸素ボンベからたっぷり酸素を吸い込みながら我々は朝からのハード・ライディングの疲れからたちまちのうちにぐっすりと眠り込んだ。

登頂成功!

神よ、自然よ、ありがとう

十二月十三日、我々は夜明け前に起きた。酸素ボンベを背負い、マスクを顔にあてた私とビエールはヤマハに跨がり最後のアタックに出発した。

頂上まであと半分という高度五五〇〇メートル付近まで来た所で太陽が顔を出し、それまで凍りついて固くなっていた地面は急速にゆるんできた。一メートル進むごとに車輪はあがきのとれない状態になり、時には後ずさりし、一進一退をくり返していた。時間は容赦なく経過した。七〇〇メートルばかりを登るのに七時間もかかってしまった。そしてとうとう我々の一番怖れていたことが起きた。ボンベの酸素がなくなってきたのだ。

ヤマハはやはり酸素不足のため出力が大分落ちては来たものの、まだ我々の信頼に十分応えてくれていた。

しかしハード・ライディングはなおつづく。真上から照りつける強烈な太陽、そして酸素の欠乏。我々は汗をかき、ノドの乾きや猛烈に襲ってくる頭痛や嘔吐感と必至になって闘い続けた。

大きな岩を乗り越えた直後、私は眼下に大きなクレーターとそこに刻み込まれた雄大な水河を見た。その瞬間私の頭の中はカラッポになった。

私とビエールとヤマハはついにやった。アフリカの最高峰、キリマンジャロを征服したのだ。神よ、自然よ、友よ、ありがとう。



■ 145.5cm × 112.1cm

日本画院展 奨励賞

「作業場」 西山 輝美

右のカラーページの作品は、さる五月十日から二十日まで、東京・上野の東京都美術館で行われた日本画院展で奨励賞となった力作です。作者は東京・八王子市のヤマハフレンド店・北原輪店にセールスエンジニアとして働く西山輝美さん(37)。本誌でも以前ご紹介したことのあるエンジニア兼アーティストです。

エンジニアはアーティスト



定休日、自宅のアトリエで「菖蒲」の制作に取り組む

「日本画院展」は、日本画界において、権威ある展覧会のひとつ。今年は六百点以上の応募作品の中から、百九十点が入選し、その中で特に優秀な作品に対して与えられるのが奨励賞です。

西山輝美さんは中学卒業と同時に北原さんのお店につとめ、以来22年動続の大ベテラン社長の北原治郎さんが「輝ちゃんには本当に感心しているんですよ。販売、修理と、店の仕事は、なにをしてもらっても完璧です。ウチは毎週水曜日を定休日としていますが、輝ちゃんは定休日以外はほとんど休んだことがありません。今回の受賞作品は一年がかりで描いたと聞いておりますが、いつ絵筆をとっていたのか心配でした」と語るように、西山さんは、北原輪店での仕事を終えてから、夜の2時、3時までかかって描き上げました。

ご覧いただいておりますように、今回の西山さんの作品は、皆さんにとっても身近な作業場の風景ですが、日本画の題材としては大変めずらしいとのこと。多数展示された入選作の中でも、題材、表現方法など、ひときはユニークなものとなりました。静物、花鳥、



納車の準備にいそがしい北原社長(右)と西山さん(左)



昨年の「日本画院展」で佳作賞となった(左)「秋韻」(右)「冬韻」

山水など伝統的な日本画のモチーフを描いてきた西山さんにとっても、「作業場」は新しい美の発見だったようです。

「展覧会は私にとっては戦いの場です」とおっしゃる西山さんですが、「本業はあくまで北原輪店さんでの仕事です。絵は今後もライフワークとして続けていきたいと思っています。次はどのようなテーマで描いてやろうかと構想をねっている時が一番楽しいですね」と語っております。



安全からSLまでを目指した 二輪車の広場

大阪モーターサイクル高等学園

国鉄大阪駅より南へ約十七キロ、都市化が急テンポですすむ泉北ニュータウンに近い堺市針ヶ峰に「大阪モーターサイクル高等学園」があります。

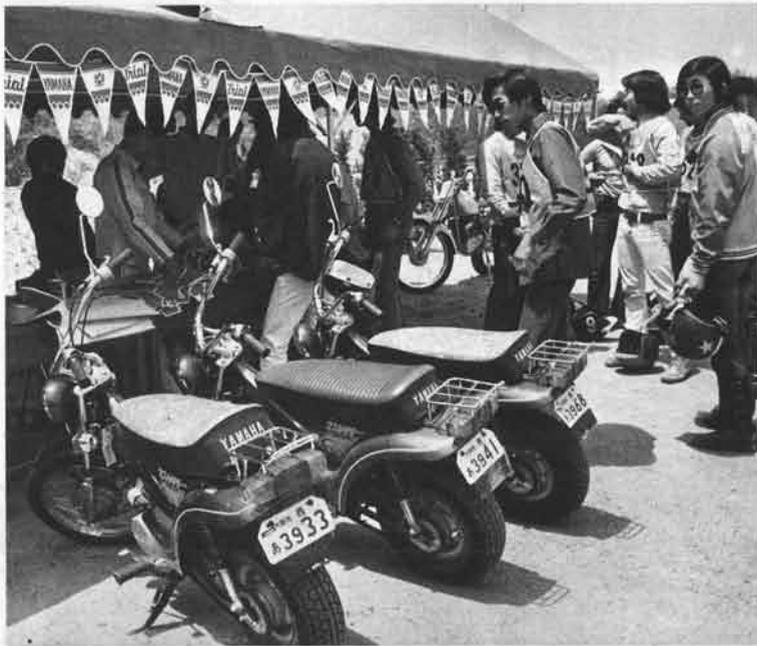
この「学園」は二輪車の安全運転の教育の場として、またジムカーナやトライアルなどモーターサイクルスポーツのプレイの場として、二輪車を主体とした全般的なトレーニング場を目的として開設されたものです。

園内にはS字、一本橋、玉砂利、凸凹など基本テクニックのライディングコースのほか、トライアルテクニクのトレーニング場と競技用セクションも併設されています。

この「学園」を会場に、このほどヤマハSL大会が大阪支店普及本部の主催でひらかれました。集ったお客さまは関西地区のレジャーバイク愛好者と、トライアル志向のスポーツファン。午前中は基本乗車に重点をおいて「学園」の高市、石浦、阪井インストラクターが指導。午後はレジャーバイク派がラーニングに、またトライアル派は競技に移り、SLの楽しさを満喫したものでした。



教育とプレイの両面が実施できる「二輪車の広場」大阪モーターサイクル高等学園。間もなく正式オープンとなる



レジャーバイクを使ってミニミニ・ワンデイ・ラーリングに出発。こうしたSL活動が市場を大きく育てるのだ。



あつまったSL仲間



初心にかえて基本テクニックの復習



こちらはトライアル。さまざまなセクションが用意され、トレーニングにはまさに絶好。

大阪支店普及本部では、これからも機会をとらえて、こうしたSLの集いを催し、健全なモータースポーツの発展につとめていく方針で、六月二十六日には、同学園のセクションを使って「SLヤマハトライアル教室」を開き、好評を博しました。

信頼を増す安全点検サービス

鹿児島県肝属郡高山町論地 川元モータース

川元 勇雄社長

こんにちは
ヤマハ
です



小雨の中を次々とお客さまがお店にみえる。そのお客さまの目の前でテキパキと安全点検サービスがつづく川元モータース店頭。



下校時には高校生のお客さま方が。鹿屋農高では50ccバイクの通学が認められており女高生もメイトやチャビィで通学している。



「帰りによらしてもらおうヨ……」 あいさつがわりにサービスの予約。この辺のお客さまにとって安全点検サービスは恒例の行事。

ゴーゴー・ヤマハ・キャンペーンの中にもありましたが、「安全点検サービス」をお店の一大セールスプランとして、お客さまから絶大な信頼を得ているお店があります。
鹿兒島市から桜島を右手に見て、国道220号線を錦江湾沿いに走ることおよそ一時間半、かつて海軍の特攻隊基地がおかれ、いまも航空自衛隊が駐屯している鹿屋市の郊外、肝属郡高山町論地にお店をもつ川元モーターズさんがそのお店です。

うちの柱は

安全点検サービス

川元モーターズさんの経営者、川元勇雄社長が二輪車販売を手がけるようになったのは八年前のこと。若冠二十才のときでした。いらひとりでコツコツとお店を築きあげてきたのです。その一つの柱が、「安全点検サービス」の実施でした。

「よい商品を仕入れてお客さまに売る、うち一軒の商売ならこれでも商売はのびるでしょうが、世の中はそんなにアマイものではない。ましてセールスも、サービスも主人ひとりという小さな店では、お客さまに嫌われでもしたら、もうそれでおしまいです。そんなわけで、私は、店をひらいたときからお客さま本位の店をつくらうと固い決心のもとにすすめてきたのです」

高山町は人口一万九千、隣りの始良町を含めても三万にはなりません。殆んどの家庭が農業に従事していますが、それも農業一本という大がかりなものではなく、出稼ぎを主とした半農です。それも最近では、マイクロボスでの送り迎えとあって、自分の足を持たなく

とも支障はありません。

「郡部なもので、大きな商圏はのぞむすべもありませんが、やはりちよつとそこまでの足がわりにバイクは必要不可欠のもの。広い意味での自転車が必要不可欠なものです。それだけにお客さまの信頼を得ることが非常に大切なのです。」

それでは何をもちてお客さまの信頼を得るか、ということになりますが、これはその土地、その土地でいろいろと差はあるし、お店の性格によつて変わってくるでしょうが、うちでは、自分の技術を生かしてサービスで応えることにしたのです。そして、このサービスを徹底的に売込むことにしました。それが「川元モーターズの安全点検サービス」という柱なわけです」

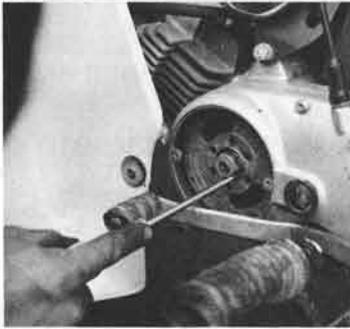
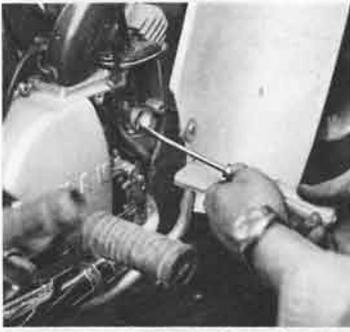
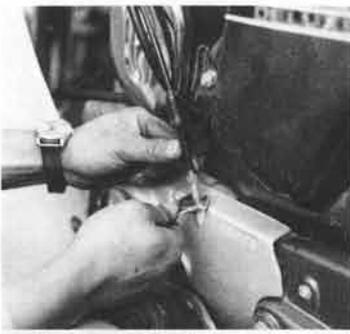
繰返し、

繰返し行なおう

「川元モーターズの安全点検サービス」はこうした川元勇雄社長の方針から出発したのですが、いまではもうすっかりお客さまとはなじみの行事となっています。

「こうした行事は、繰返し、繰返し実施していくことで、初めてお店の特徴として受入れられることになるんですね。今回の場合はたまたまゴーゴー・ヤマハのキャンペーンと時を同じくしましたが、もうお客さまとはすっかりおなじみのものとなり、こちらから日時を指定したりして、効率的なサービスが行えるほどになりました」

今回の安全点検サービスの実施期間は月曜日、火曜日、水曜日の三日間。サービス車輛の対象は一二〇台ということです。このため



所定の基準によって安全点検はすすめられる。もちろんお客さまからの要望で、とくに不具合なところがあれば直ちに整備する。こうしたことで、お客さまは「カワモトモータースから買えばいつも安心して乗っていただける」と、すべてをまかせている。



に用意したDMが一五〇通。このニュースを耳にしたとき、ウィークデイでもあり、一五〇通のDMで、本当に一二〇人ものお客さまが見えられるかどうか、ちょっと信じられない感じがしないでもなかったのですが、現地について、次から次へとお店に訪れるお客さまを見て「なるほど！」と感心しました。

午前九時のお店のオープンの前に、すでに七、八台のお客さまの車が入庫しています。そして、この入庫している車を次々と点検整備している合い間にも、二台、三台と、メイトに、YBに乗ったお客さまが見えられるのです。しかも、天気は時折り小雨がパラつくといった日なのです。

応援の要請をうけて駆けつけたヤマハ南九州・鹿屋営業所の野末紳治、福島久和の両メカニックも休む暇もないほど。作業進行はいかにと顔をみせた諸岡皓二所長も、さっそく受付業務にペンを走らせました。

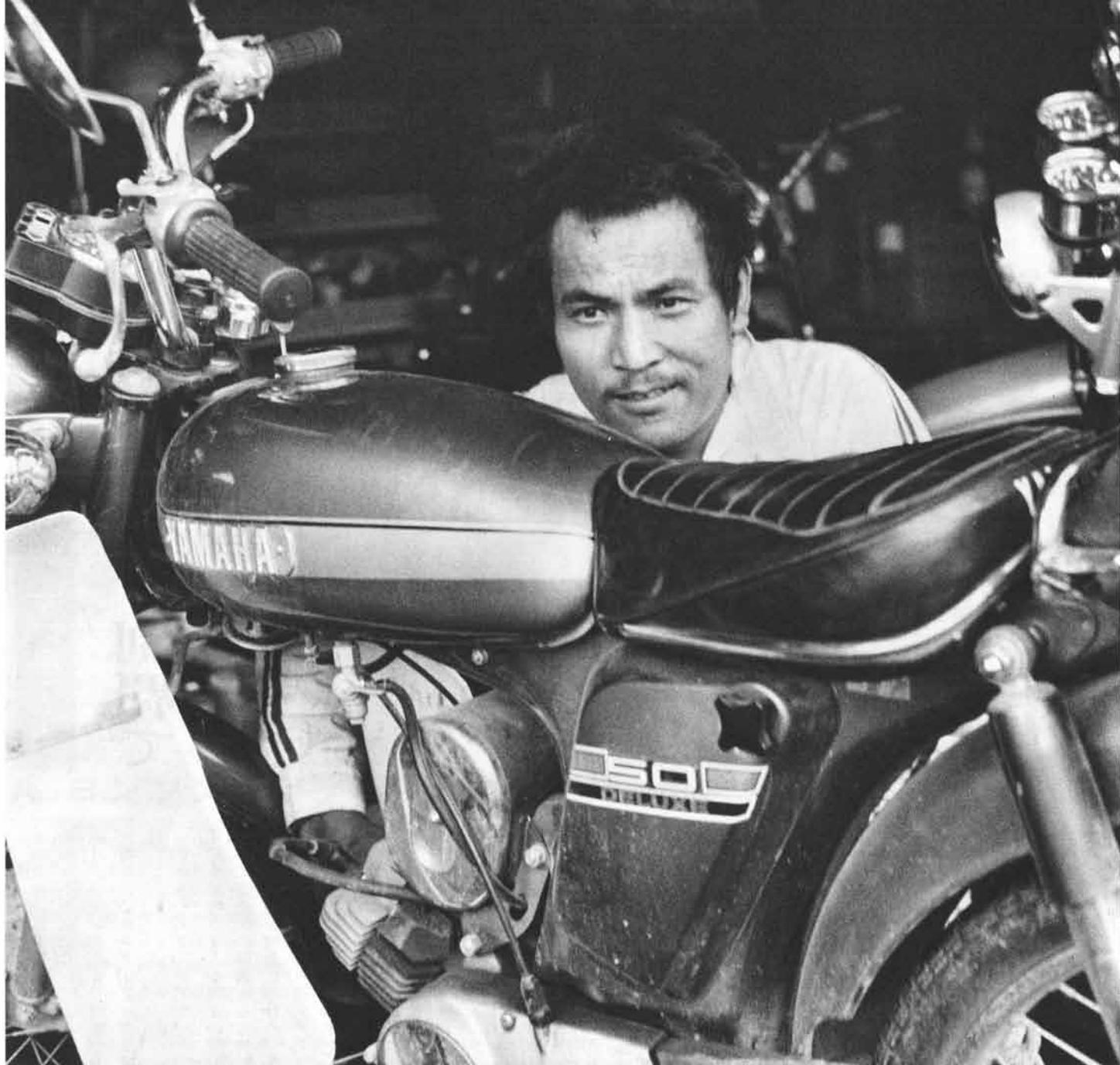
「川元勇雄社長は非常に積極的にご商売をすすめていく人です。安全点検サービスの実施もそうですが、新型車を試乗用におろして新しいお客さまをつくり、常に前向きな姿勢をもって事に当たっていくすばらしい人」とは諸岡所長のことばです。

地域社会に

密着した商売を：

「市場の大きな町の大手筋なら、店の改革もいろいろとやり方があるでしょうし、また時代の流れにマッチした店づくりというものをうちだしていかねばならないでしょう。」

しかし、われわれのような郡部にあつてはそう大きな変化はのぞめない。やはり地元



「お客さまには安全運転に専心してもらおう。それも定期的な整備があつてこそ。私は私の技術でお客さまの信頼をかちとる」作業中の川元勇雄社長。

お客さまと密着したやり方で、ぼちぼちすめていくほかないのですよ。その一つが安全点検サービスであり、試乗車の提供であるんですが、そのほかに、たとえ夜中であってもサービスの要請には応えていかねばなりません。そのくらの努力がなければ、お客さまの心からの信頼は得られないんです。

まあ、そうしたことが徐々に認められ、お客さまからお客さまへと口づてにお店のPRもしてくれば、新しいお客さまも紹介してくださる。ですから、こちらもどんな車をもちこまれても、それに応えられるサービス技術だけはもとより心がけているのです」

初日の安全点検サービスを受けた車は合計三十八台。夕方六時には作業を終って店を片づける。お客さまがひとり、ふたりと顔を見せ、片づけ仕事を手伝っている。

「うちはひとりなもので、仕事としては手いっぱいです。若い衆を使って払販していくことも考えないではないですが、最近は何件も高くついていますからね……。ま、うちのお客さまが、うちのセールスをよく手伝ってくれますもので、いまのところは順調ですよ」

昨年度の販売実績はもちろん三ケタ。楽しい夕べの食卓を囲む頃には、またまたお客さまが顔をみせ、ビールの栓が開けられる。奥さまの田鶴子さんは、ご自慢の料理でお客さまを歓待する。

「この辺は、何かあるとお店にあつまっては酒を飲み、世間話に花を咲かせる。またそれがみんなの楽しみとなっているんです」

コーラで仲間入りした営業技術の野末さんが、オートバイ技術のあれこれ話をつなぎながら、川元モーターズの一員として川元勇雄社長をたすけていたものでした。

'74世界選手権ロードレース第五戦・マン島TT

ヤマハ車、驚異の五クラス制覇で TTレコードを更新



TT500cc級ウイナー(英誌Motorcycle 6月15日号より)

500cc級TTは、P・カーペンター、C・ウイリアムズ(共にオーバーボアのTZ350)の勝負に開始したが、三周目からカーペンターがリード、山手コース五周を平均時速九六・九九マイルで完走、ヤマハにセニアTT初優勝の栄冠をもたらした。

写真は、ブレーキを快調に飛ばすカーペンター、このときウイリアムズとの差は約十秒。

六十七年という長い歴史と伝統を持つイギリスのマン島TTレースは、今年度の世界選手権ロードレースシリーズの第五戦として、六月一日から七日まで例年のようにマン島の一周約六〇キロメートルの公道を舞台に行われた。

ヤマハ・ファクトリー・チームは、このTTレースのコースが現在のマシンの性能からみて安全性に問題あると判断し、チームとしての出場を断念したため、チャンピオン、アゴスチーニやK・アンダーソン等の活躍は見られなかったものの、ヤマハに乗ったブライベート・ライダーがマシンの性能をいかになくひきだし、プロダクション・レースを除いたソロ・レースの全五クラスを独占、MVが作った四クラス優勝のTTレコードを打ち破った。

ヤマハ車勢の大勝利の先頭に立ったのは、六月三日に五ラップ制で行われた350ccクラスで、昨年に続いて二連勝を果たしたトニー・ラターである。またこの350ccクラスでヤマハ車は上位三十五位までを独占したのである。このヤマハ車のオン・パレードは、五日の250ccクラスにおいても見られた。このクラスをものにしたチャーリー・ウイリアムズ

は、トニー・ラター同様二年連続優勝したもので、彼に率いられた二十七台のヤマハ・マシンは他車を寄せつけずに相ついでゴールインしたのである。

悪天候のため翌日の六日に延ばされた500ccクラスでは、354ccにボア・アップされたTZ350ccに乗ったフィル・カーペンターが初優勝、以下八位まで各自おもしろいにもチューンしたブライベート・ヤマハのTZ350ライダーが占めた。

ソロ五クラス独占の快挙がなされたのは六月七日の最終日で、この日は125ccとフォミュラー750の両クラスが行われた。

125ccクラスではクライブ・ホートンを初めとするヤマハ勢が四位までを占めた。

750ccではチャス・モーターイマーがTZ350で優勝、二、三位にはチャーリー・ウイリアムズとトニー・ラターがやはりTZ350で入り、ワークスチームで出場したノートンやスズキのビッグ・マシンを問題としなかった。こうしてワークス・ライダーに代って、向うところ敵なしといった活躍ぶりを見せたヤマハブライベート・ライダー勢は、この数年で最も多くの観客を集めた今年のマン島TTを一層充実したものにしたのである。

500cc級サイドカーTT

初出場の改造ヤマハが活躍

山手三周の500cc級サイドカーTT(六月四日)は、ひとりの西独BMWオンパレードといった印象が大分薄れ、ケニヒ、BSA、ノートンまたはホンダなどの改造マシンが多

数参加、レースに新しい興味を添えていた。

特に、M・ホブソン、J・アームストロングのペアが使用した改造500cc四気筒ヤマ

ハエンジンを装備したマシンが、世界選手権レース初出場ながら、BMW、ケニヒに次いで三位に入賞しファンの注目を集めた。

また、同日行われた250cc級市販車レースでも、RD250のライダーが大活躍、M・シャープ、E・ロバーツが250cc級一、二位を独占した。

'74世界選手権モトクロス250cc級シリーズ 元気回復、都良夫堂々3位入賞!!



ヤマハは今年の世界モトクロスGP 250cc級に、昨年のFIM選手権125cc級2位の鈴木都良夫と、同じヤマハに乗って'73世界MXGP 250ccチャンピオンになったH・アンダーソン(スウェーデン)とでチームを組み、このクラス2連勝をめざしたが、不運にも両選手とも、第3戦チェコGP(5月5日)でそれぞれ右手首と背中に大ケガをし、戦列から後退せざるを得なかった。

しかし両選手ともケガが思いのほか早く回復し、都良夫は第6戦イギリスGP(6月2日)から、またアンダーソンは第8戦オランダGP(6月16日)から戦列に復帰し元気な姿をファンの前に見せた。

とくに都良夫は第7戦(西ドイツ)の第2ヒートで6位に入賞、つぎの第8戦のやはり第2ヒートでは、すばらしいスタートから終始好位置をキープし、現在ポイントランキング第1位のモイセーフ(ソ連・KTM)らの強豪を押え、堂々3位に入り表彰台に立つという活躍ぶりだった。

一方、昨年の覇者アンダーソンは、2週間の病院生活、6週間ぶりのライディングというハンデにもめげず安定した走行を見せ、第1ヒート14位、第2ヒート6位とまずまずの成績を取めた。地元の新聞も、大手術直後とは思えないアンダーソンのチャンピオンにふさわしいガンバリを高く評価していた。両選手の今後の活躍が大いに期待されるどころである。

500cc級シリーズ

A・ヨンソンはランキング6位に

MXGP 500ccクラスは、6月16日の西ドイツ戦まで6ラウンドを消化した。

第5戦のチェコGP(6月7日)終了の時点で2位以下に46ポイント差と大きく水をあけ、断然トップに立っていたフィンランドのミッコラ(ハスクバーナー)は、続く第6戦(西ドイツ)のプラクティスで転倒しケガをしたため本番に出られず、1ポイントも追加できなかった。それまでポイント・ランキング第2位につけていた西ドイツのワイル(マイコ)は、地元の利を生かしての好調なレース運びで1位と2位を占め、一挙に24ポイントをかせぎミッコラとの差を25点差に追い上げ、後半のタイトル争いをがぜんおもしろいものにした。

ヤマハ・ファクトリー・チームのA・ヨンソンとJ・ベルソーヘンは常に上位に入賞しているものの、まだ本来の調子をだしきれない感じである。しかしながらA・ヨンソンは現在ポイント・ランキングの第6位に入っている。

第8戦(ポーランド)五月十八日)終了の時点で、ポイント・トータル77で、マルコム・ラスメル(ブルタコ)と並んでトップに立っていたヤマハのミック・アンドリュウスは第9戦では惜しくも二位のラスメルにわずか2点差の四位となった。この結果選手権争いでミックは八十九ポイントのラスメルに次いで八十五ポイントで第二位となっている。

この日のベスト・パフォーマンスは、昨年の覇者マーティン・ランブキン(ブルタコ)。三位にはラスメルと同点ながら、クリーン数の差でフィンランドのベステリネン(ブルタコ)が入った。

'74欧州選手権トライアル ミック、二位を確保

'74欧州選手権トライアル第九戦は六月二日、西ドイツで開催された。この第九戦は好天のもと、一周十六kmのコースを四周して行われた。このコース、岩だらけの川床のセクションと、木の根の多いマデュー・セクションとが特徴となっていた。

74世界選手権ロードレースシリーズもいよいよ後半戦に入ったが、第六戦のダッチTT(六月二十九日、アッセン)では、ヤマハのを独占した。

ニューラップ記録が続出 350ccメーカー選手権獲得

'74世界選手権ロードレース第六戦・ダッチTT

これで二、六戦の350cc級レースの優勝はすべてヤマハが独占、シリーズ十ラウンドの過半数に達し、早くもヤマハのメーカータイトル獲得が決定した。

一方、アゴスチーニは350cc級で四勝目をあげ、タイトルに大きく一歩近づいた。

また、シリーズ前半アンラッキーなアクシデントの連続でふるわなかった500cc級も二勝になり、選手権を目指す後半戦のハッスルがみものだ。

アゴスチーニは、350cc級でMV時代の3分8秒4を破る3分2秒8のラップ新記録を出したが、500cc級では、M・ヘイルウツド(ホンダ)の3分5秒4を大中に更新する2分59秒8の快記録をマークした。

ダッチTT125cc級は、スイスのヤマハ代理店エントリのB・ニューバーラーが、マランカのO・ブツカリーニと激戦の末優勝した。

また250cc級は、水冷ツインのハーレーダビッドソンで出場したW・ピラが首位、二位、三位にB・ニューバーラー、K・ロバーツの両ヤマハラライダーが入賞したが、アメリカの、エースロバーツはヘイルウツド(ホンダ)の3分8秒5を更新する3分5秒8のラップ新記録を樹立した。

★全日本モトクロス第5戦 秋田大会

谷川徹二(ジュニア)初の三重勝
セニアは木下(125)、秀明(250)

GPから三週間後の6月9日一万二千の観客を集めて東北・秋田モトクロス大会が開かれた。

会場の大湯スキー場は、逆バンクは多いが黒土のグリップのよい、スピード・コース。ジュニアクラスでは、ランキング3クラスともブッチギリのトップを行く谷川徹二(大阪北山レーシング)が、この大会で初の3クラス一位リトリブル・クラウンを達成した。昨年はMXにのる古田哲郎が3クラス征覇を重ねたが、今年は谷川がはじめての快挙である。谷川はスタートは中位からの時も、同じYZに乗る大賀広美(福岡ブレイメイト)や河内賢二(同)、それに奥村勝昭(中央スポーツライダース)と競り合って、着実にトップ



先陣を競う②秀明(優勝)、⑧瀬尾(2位)、⑤岩尾(7位)のヤマハ勢(S-250)



S部門 125ccクラス優勝の木下信安



よく実力を発揮、J部門90cc、125cc、250ccトリブル・クラウンを果した谷川徹二

を手にした。

逆バンクのむりをしない走法や、細い、段差のあるコーナーのこなしかたに、ジュニアとは思えないテクニクのさえを見せ、大阪からかけつけた茶谷周作氏のサインもよく、快進撃を展開した。

EJクラスでは、GPですばらしい追い上げをみせた末永初弘(福岡ブレイメイト)や125ccランキング3位の手島寅夫(同)、250ccランキング3位の平野文夫(遠州ライダース)が期待されたが、もう一歩であった。

セニア125ccクラスは、これもランキングのぶつぎり一位の木下信安(福岡ブレイメイト)が石井正美(スポーツライダース)と競いあい、木下一位、石井二位。3位から5位



◀表彰台で観衆に応える高井。S 750 チャンピオンも目前だ

▼1周2キロという短かいコースにもかかわらず、1周目から後続グループを大きくひき離して独走する⑫高井幾次郎(TZ350)



一戦、二戦とつづいた鈴鹿サーキットから舞台を筑波サーキット(茨城県)に移して第三戦は、六月二十二、二十三の両日にわたる

★全日本ロードレース第3戦(筑波)

高井幾次郎・TZ350総合優勝

までも、杉尾、岩尾、鈴木忠男、とヤマハ勢が独占した。

セニア250ccは、混戦中のランキング競いが注目されているところだ。

スタートは鈴木秀明がトップ、瀬尾勝彦は一週目、吉村と接触、転倒で最下位となるが猛烈な追い上げを見せ、コーナーのつっこみではつきり他の人に差をつける。

しかし、トップの増田をぬく瞬間、またも

両者激突。たおれたマシンの間を続いていた鈴木秀明がぬき去るという劇的な場面を展開した。瀬尾はなおもレースをすてず、迫りに迫って2位でゴール、若さあふれるレースで大拍手を受けた。三位は石井、四位竹沢。

この結果、250ccのランキングは、1位瀬尾(36点)、2位石井(35点)と逆転、3位竹沢(32点)、4位鈴木秀明、杉尾良文(共に31点)と、いっそうはげしさを増している。

行なわれた。

関東では今年度初の全日本ロードレースとあって中部、関西からの遠征組に、筑波をホームグラウンドとする多くの関東勢が加わって、各クラスに鈴鹿とはまた異なった興味深いレースを展開して会場を沸かせた。

メインのEJ/S750ccクラスには、国内四連勝をつづける河崎裕之をはじめとするTZ750、勢が、不参加。

TZ350でめざましい速さを示している高井幾次郎が、このTZ750、欠場のあとを埋めて、まさに目のさめるようなレース展開を見せ、トップの座をただの一度さえ誰れにもおびやかされることなく二位の莊利光(スズキ500)に五秒の差をつけて今シーズン初の総合優勝を果たした。

これで高井幾次郎選手は、セニア750ccクラスに三連勝、フルマークの45点で、このクラスのチャンピオンにあと一勝と迫った。

またジュニア350ccでは、前号本欄で紹介した鈴木修(ブレイメイトRT)が二連勝、一方ノビス90ccクラスには、千葉県野田市でフレンド店を営む「野田ヤマハ」のご主人斎藤城太郎さん・31才も出場。十代の選手にまじって元気いっぱい走りを見せ、みごと六位入賞を果して話題を呼んだ。

NEW MODEL

プジョーサイクル PA25

プジョーサイクル軽快車シリーズに新しい商品PA25が加わりました。PA25は婦人層を対象にしたレディ専用の軽快車で、その特長は①日本人向きの小さめなフレームに、②標準サイズのリム(18.5-26×1- $\frac{3}{8}$)を採用、③買物などに便利なフロントキャリアを標準装備として、④乗りやすさ、扱いやすさを大いに高めたことにあります。カラーはオリブ、ホワイト、ブルーの3色。



結束かためた

全九州プジョー販売店会議

を開催

六月十八日、福岡西鉄グランドホテルにおいて「全九州プジョー販売店会議」がひらかれた。これは、絶好のサイクルシーズンを迎えてますます意欲あがる九州地区にあって、とくにプジョーの拡販に意欲を燃やしている販売店さん80店が一堂にあつまり、プジョーの販売について討議を重ねたもので、これからのプジョーの販売についてヤマハの方針、九州市場の拡販策、ユーザー分析、商品説明など、商売に密着した話込みのほか、スライド、ムービーの映写を行って有意義な一日を過ごした。

どうぞ、よろしく “マルさん”が新店舗をオープン



モトクロスセミアライタ―として、また二輪車安全運転特別指導員として、二輪車の普及に力を入れてきた加藤清丸氏が、このほど神奈川県大和市深見三九二九に「加藤ヤマハトレールショップ」を新築オープン、その豊かな経験を生かして二輪車販売店の経営に本格的にのりだすことになった。

「やっと自前の店舗をオープンすることにになりました。好きな道から二輪業界に身を置くことになったわけですが、諸先輩がたのご指導、ご協力を得て、立派な店づくりに励みたいと思います」と、加藤清丸氏は開店のあいさつでその抱負を述べた。

お店の業績アップに役立つ関連商品の開発と用品の提供でみなさま方のご協力をいただいています。ヤマハパーツセンターでは、このたび世界でも有名な「チャンピオンスパークプラグ」を取扱い商品群に加えました。

すでにご承知のように「チャンピオンプラグ」はヤマハ・ファクトリーレーサーにも使用されているもので、その性能には高い信頼性が認められています。とくに今回ヤマハパーツセンターの商品群に加わった「チャンピオンプラグ」は、オートバイ用に特別設計しパッケージされ、ヤマハ流通経路を通してのみ販売する非常に斬新なプラグです。

タイプ別としてはL86、L81Y、R16とありますが、このうちL86一種類で通常お取り扱いになる約七割をカバーできるワイドな熱価特性をもっています。



ヤマハパーツセンター
からのお知らせ

プラグタイプ	メーカー	適 応 車 種
L86	ヤマハ	スポーツ：RD350、RX350、RD250、250DS6、CS200E、RD125、AX125、HX90、RD50、FS50、FX50、MR50 トレール：MR50、HT90、AT90 ミニ：GT80、GT50、JT60、FT50 ジップイ：LB80 1-C (I-H)、LB50 1-C (I-H) チャッピー：LB80 II-A (H)、LB50 II-A (H) メイト：V90、V70、V50、70U7A-E ビジネス：125A7、YB125-E、YB90 (E)、YB60、YB50、HB90 (E)、H90、FB50



お店への入口の左手。プジョーサイクルの大きなショーウィンドウ

「よいものは認められる、ということとは確かなことですね。私の場合、それをお客さまから教えてもらうという、通常の場合とはまったく逆の立場であったのですが、プジョーを扱うようになって、お客さまの層も広がれば、お店のPRも高まり、サイクルショップとしての格もあがりました。

早くスーパーPX-10Eのお客さまを増やし、真のサイクルの味はなにか、それをみんなと一緒に語りあい、楽しみたいと思っています。」

一段と仕事を熱を入れてきた本郷弘治社長のそばで、奥さまのやす子さんも大きくうなづいていました。

「よいものは認められる、ということとは確かなことですね。私の場合、それをお客さまから教えてもらうという、通常の場合とはまったく逆の立場であったのですが、プジョーを扱うようになって、お客さまの層も広がれば、お店のPRも高まり、サイクルショップとしての格もあがりました。

早くスーパーPX-10Eのお客さまを増やし、真のサイクルの味はなにか、それをみんなと一緒に語りあい、楽しみたいと思っています。」

「よいものは認められる、ということとは確かなことですね。私の場合、それをお客さまから教えてもらうという、通常の場合とはまったく逆の立場であったのですが、プジョーを扱うようになって、お客さまの層も広がれば、お店のPRも高まり、サイクルショップとしての格もあがりました。

早くスーパーPX-10Eのお客さまを増やし、真のサイクルの味はなにか、それをみんなと一緒に語りあい、楽しみたいと思っています。」

「おかげさまで、まずは順調な出足でしたが、この仕事に関すること、私はまだまだ駆け出しです。自転車に関する知識も店をひらいてから勉強したくらいで、一台の組立てに一日がかりということからスタートしたんです。だから、毎日毎日が勉強で、こちらから逆にお客さまに質問し、教えてもらったりすることもありました。

そんなときに、お客さまからプジョーの話聞き、写真を見せてもらってから、実物をとりよせ、その美しさにまたびっくりしたんです。なるほど、本当の自転車というものはこういうものなのだ、と心にジーンとするものがありました。正直いって、プジョーが私にわたしたシヨックは新鮮な驚きでした」

そのプジョーを扱って、お客さまの層もぐんと広がり、いまではサイクルマニアという自転車には一家言もついている「ツウ」の人もお客さまに加わっています。

ことは高級車の「ほんごう」をつよくうちだしたいと、プジョーを前面におしだして精力的なご商売に励む本郷弘治社長と奥さま



東北の玄関口、仙台駅から車で約十分、建設中のトレールランド菅生に向う秋保街道を南下すると、道ゆく人の目をうばわずにはおかないみごとな外装の「乗物センターほんごう」

う」さんが見出されます。

昨年の二月、サラリーマンからサイクルショップの経営にのりだした本郷弘治社長(33)のお店です。それから一年半、まったく島ち

プジョーコーナー拝見

乗物センターほんごう

仙台市長町8-22-10

しゃれたデザインで好評です

販売促進に役立つPR用品として、気のきいたアクセサリ。小物類はいかがですか。
いずれも、しゃれたデザインが好評のものです。
ご注文は担当のヤマハマンにどうぞ。



●012001 バッジ



●012002 タイピンA(ヤマハマーク)



●012003 タイピンB(燃料タンク型)



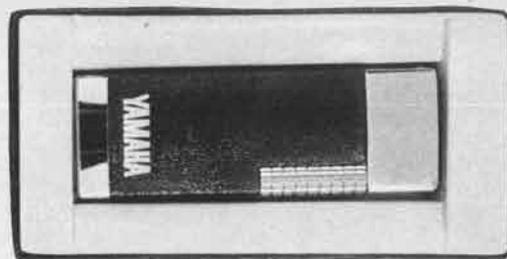
●012004 タイピンカフセット



●012105 スピードサイフ



●012007 電子ガスライター



●012008 ガスライター(赤)

気品あふれる名車の伝統。
プジョー。

1882年以来自転車をつくりつづけてきた深い
伝統。国際レースを制覇した卓抜な技術。プ
ジョーは、その長い経験と技術の練磨から生
まれ育ってきました。世界一級のパーツで構
成した主要部分。美しいフォルム、強い剛性、
無駄のない軽量化。プジョーは、名車のみが
もちうる気品と、どなたにも愛される乗りや
すさ・扱いやすさをもつ、まさに本物時代に
ふさわしい自転車です。

PEUGEOT 

プジョー・フランス